

# わがまち紹介

## 吹田吉志部

### 文人墨客迎賓館

#### 「春の特別公開」見学会

平成 28 年 4 月 4 日(月)

国登録記念物(名勝)である庭園で新芽の綺麗な時期でした。さらに桜が満開で見ごろでした。

普段公開していない掛軸・離れ座敷の屏風・襖絵や茶室内部等の公開でした。

館長松本さん始め多くのボランティアガイドの方が丁寧に時間をかけて、説明して下さいました。

本当に有難う御座いました。

旧中西家は、平成 23 年 11 月紅葉の時期に訪問し、当時の館長梅田様のお世話になり、ボランティアの多くの方々に説明をして頂きました。

今回、館長松本様のご配慮により、「春の特別展」のご案内の連絡を頂きました。特別公開は、春の桜のシーズン、秋紅葉のシーズンにそれぞれ一週間程度開催されます。

旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)江戸時代の学者で漢詩人でもあった廣瀬旭莊が「其宅華麗殆類候居(華麗で、諸侯が

住まう家のようなだ」と讚えた。

旧中西家住宅は、家具や調度品、絵画や古文書などの文化財とともに、吹田市に寄贈されたものです。

旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)は、文人をあたたく迎えてきた中西家代々のところに培われた豊かな歴史や文化を伝承するとともに、大切なお客さまをお迎えする

重厚な屋敷構えや建築物、華麗な庭園や家具調度は歴史と伝統の深さを窺わせ、美しく整えられた空間からは快適に住み続けることが文化を伝承していくことに繋がるといふことを示しています。

中西家は、江戸時代には大庄屋を勤めていました。約千坪の屋敷に、文政 9 年建築の主屋、長屋門、内



桜の咲く庭園で記念写真



蔵(米蔵)、キザラ(木小屋)などの建物が建ち、江戸後期の大庄屋の屋敷構えを、ほぼ当時のまま伝えていきます。

また主屋前面に造られた庭園は、作庭の位置や造園の技法に特色をもっていて、希有なものといわれています。

旧中西家住宅のほぼ全ての建物は、吹田市指定有形文化財に指定され、同時に国の登録有形文化財に登録されています。吹田市の長い歴史と深い文化を伝える貴重な建物です。

現在のダイニングキッチンなどは、もとは土間で竈「かまど」や精米用の踏み臼も据えられていました。

いまの内装材を取りはずすと、建築当時の姿に復することができるよう設計されています。

文化財を保存しながらも快適で、住み続けたいくなるよう美しく整えられています。

記・写真 大岡成一

# 会員だより

## 熊野古道中辺路

### 大雲取越え

#### 「ゴールイン」は

#### 次のスタート

大きい雲に手が届いて取れそうな高い所という意味から、この名がつけられたと言うほど熊野古道でも最大の難所と前回よりさんざん添乗員や語り部から脅された今日のコースは所要時間少なくとも 8 時間、14 キロ、高低差 800 m。バス仲間の誰を見ても自分より優れていると思えて、不安になり、再び訪れた青岸渡寺のスタート地点の参詣階段にさえ息切れがしてくる。社殿の裏手の道から出発して歩き始めると那智高原が見え、落ち着いてくる。登り、下り、平坦な道の繰り返しで、登立茶屋跡から舟見峠に着いた。昔の旅人は熊野灘に浮かぶ舟を見てさぞかしほっとしたことだろう。

予告通りのアップダウンの激しい山道でもうリタイアする所はないと言われ、ひたすら歩く。行き倒れの巡礼碑に手をあわせ、初めて見る小花や丸くなった石畳に気を取り直して、進むと無人で無料休憩所の地藏茶屋につく。柱材は桧、壁板・屋根は杉の赤味材、中央には松材の囲炉裏が設けられ椅子は丸太の切株、テーブルは末の古材がつかわれていて、すべて紀州材で新しくロジ風建てられた中で目張り寿司の入ったお弁当をいただく。休憩所もお弁当も感謝の気持ちを表せず、せめて汚さぬくらいで出発する。

地蔵茶屋を出ると、大雲取越え最大の難所に挑むことになる。相変わらずアップダウンの石倉峠・越前峠・胴切り坂を進む。脇腹が切れる程きついから胴切り坂、越前峠は熊野古道の最高地点で、標高 870 m。昔は越前まで見通せたのがこれらの名の由来。現在は植林で見通しが悪くなっているが整備はよくされているので山歩きには困らない。山の持ち主は勝浦の巨大ホテル一族の持ち山とか。さらに 800 m も続く急勾配の坂が追いはぎ坂、その通り、追いはぎに遭っても前にも後ろにも逃げる事が出来なかつたらしいので。どこもかしこも石畳で、滑りやすく余計足に力が入る。やっとな家の屋根が見えた所に「円座石(わろうだいし)」の丸い巨石。熊野の神々がこの石に座って談笑したと言われる。14 キロ 8 時間を超える山歩きをしてきた私達を抱きかかえるように鎮座している。以前新聞で岩の苔をすっかり剥ぎ取られたと報じていたが、年間千五百 m を超える雨が元の姿に戻しつつあると語り部がいわれる。人々は古代から大きな木・岩・滝など自然物に神が宿るとして崇拜してきた。この円座石には熊野三山の参詣者の崇拜の心が蓄積しているから、少々の災難にも打ち勝つたのである。私も自然崇拜の心を持つ日本人、常に自然が修復の気持ちを起こさせてくれるとあらためて感じた。熊野古道は元氣な有意義な終活を迎えられるステップだった。次の目標を決めよう。

記・写真 上村サト子



朝一番那智の滝を拝む



大雲取り越え